

パネリスト1：伊藤隆敏（コロンビア大学/政策研究大学院大学）

テーマ：アベノミクス第3の矢の発射点と着地点

報告要旨

アベノミクスの第3の矢である成長戦略を成功に導くことが、アベノミクスの総合的な完成にとって、必要不可欠である。成長戦略は、労働投入量と資本投入量を増やすことだけではなく、労働生産性、全要素生産性を引き上げて、供給側から潜在成長率を引き上げること为目标としている。生産性の向上は、実質賃金の引き上げを可能とするので、消費を引き上げて、需要面の支出増加をもたらす。とくに、労働人口が減少するなかで、労働生産性の向上は非常に重要だ。第1の矢、第2の矢と異なり、第3の矢の具体的な内容は多岐にわたるため、達成度の評価が難しい。

第三の矢のカテゴリーの政策のいくつかは、安倍第一次政権（2006-07年）の経済財政諮問会議における政策提言から始まっていることは、あまり知られていない。本報告では、例を挙げて、第三の矢（2013年6月、日本再興戦略）の発射台は第一次政権にあったことを明らかにする。

- 例1、 羽田空港再国際化と査証要件緩和による訪日外国人増加
- 例2、 強い農業を作り、FTAを強化する
- 例3、 GPIF改革
- 例4、 取引所改革
- 例5、 労働市場改革